

フ ラ ン ス ガ キ の 種 苗 生 産

佐藤 敦 ・ 横山 勝幸

は じ め に

浮遊幼生期の餌料として、他の二枚貝と同様フランスガキについても、まだ多くの問題が残されているが、昭和45年度はGreen Waterを使用し、幼生の飼育に成功を収めた。このことは餌料生物の培養をより簡易にすることが出来たと思われる。

昭和46年度はGreen WaterがMonochrysis lutheri などと同様、フランスガキの幼生飼育に充分役立つものか再確認する目的で本試験を行なった。

材料および方法

1. 母 貝

昭和44年度当センターで、人工採苗によって得られた母貝を用いた。

2. 成熟促進

フランスガキは、陸奥湾において天然水温で養殖すると、6月下旬から8月中旬に幼生の放出が行なわれるが、前年同様4月3日から16～17℃の加温海水をかけ流し、生殖巣の成熟促進を図ったところ、5月13日に幼生の放出が見られた。

3. 幼生の飼育

幼生の飼育は前年度と同様、容量0.5トンのフルコンタイ水槽（商品名ポリダイヤシート）6面を用いた。飼育密度は1,000個/ℓで軽い通気を行なった。餌料はMonochrysis lutheri、Phaeodactylum tricornutum、Green Water、Marire Yeastを与え、餌料による成長度を比較した。

第1表 各水槽による投餌量

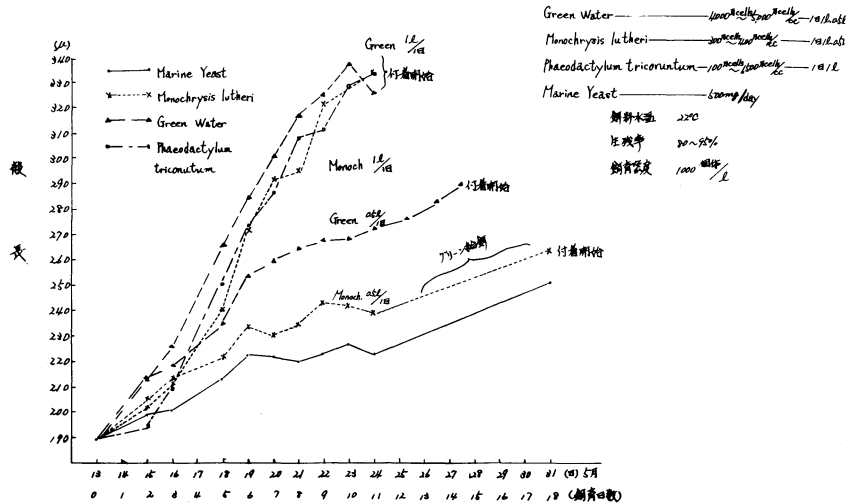
水槽No	飼 育 密 度	収 容 数	餌 料
1	1,000個/ℓ	50万個	Monochrysis lutheri 3,000～4,000万cells/cc 1ℓ/day
2	"	"	" " 0.5ℓ/day
3	"	"	Green Water 4,000～5,000万cells/cc 1ℓ/day
4	"	"	" " 0.5ℓ/day
5	"	"	Phaeodactylum 1,000～1,500万cells/cc 1ℓ/day
6	"	"	Marire Yeast 0.5g/day

結 果

1. 幼生の飼育

第1図に示す様に、Monochrysis lutheri、Phaeodactylum tricornutum、Green Waterの各1

ℓ/day を投餌した場合には 10～11 日で付着が開始され、サイズは 330～340 ミクロンであった。また Green Water の 0.5 ℓ/day、Marine Yeast の 0.5 ℓ/day を与えたものでは 240 ミクロン、220 ミクロンにしか達せず非常に成長が悪かった。以後 Green Water を給餌したところ、18 日目でそれぞれ 265 ミクロン、250 ミクロンに達し、*Monochrysis lutheri* の場合は 20 日目から若干付着するのが見られた。Marine Yeast については、以後実験を中止した。



第1図 フランスガキ飼育結果 (昭和46年度)

2. 付着後の飼育

ホタテガイ原板 10 枚づつを 1 連にした付着器を使用し、計 600 枚に付着させた。原板 1 枚当たり平均 35 個の幼生が付着し、7 月 31 日には 21,000 個であった。11 月 1 日には 18,000 個になり、以後冬期間かなりの連数が脱落し、昭和 47 年 3 月 9 日現在には 6,200 個となった。

考 察

本年度の飼育試験の結果、二枚貝の餌料には効果が少ないと一般に云われていた Green Water が、フランスガキの場合充分に使用出来ることがわかった。また、Marine Yeast の餌料効果は低かった。

また、海中に垂下してからは、冬になる以前に 11 月頃原板からはずし、パールネットに収容する必要があると思われる。